

一般質問

下道議員

「認知症カフェ」の設置について

Q 質問 厚生労働省は平成25年度から「認知症・施策推進5か年計画（オレンジプラン）」をスタート。その施策の一つとして、散歩のついでに気楽に寄れる場所として「認知症カフェ」を位置づけた。現在、福井県内では、3か所の「認知症カフェ」がオープン。勝山市でも、不安や悩み事を相談できる場所として、「認知症カフェ」が必要と思うが市の考えを伺う。

A 答弁 認知症の施策としては、認知症に関する普及啓発、家族支援、早期発見、早期治療が必要であり、市としてもこれら認知症対策に積極的に取り組んでいく所存である。また北谷地区社協では自発的な活動として「お茶のみカフェ」を開催するなど、地域や民間で様々な取り組みを行っているため、これらの自主的な活動の高まりの中で「認知症カフェ」の設置支援についても検討していきたい。

「恐竜の駅」について

Q 質問 勝山市に来るお客様への「おもてなし」と勝山市をPRする為に必要な「道の駅」

その他の質問
「がん教育」について
児童・生徒1人に1台のタブレットを使った授業について
市職員の研修の在り方と「人材育成」について

は、市内の農家・食品その他、製造業者の製品開発の励みになる。荒土町区長会では町民の大人対象に「道の駅・建設要望」の署名運動を行い、1,202名分の署名が集まり、また市では平成25年9月に「恐竜の駅」調査研究会が設置されている。

そのような中、地域の農産物の販売をどのように考えているのか。

A 答弁 勝山市は、「かつやま逸品 開発・販路開拓事業」や国、県、JAとの連携により6次産業化への支援などを継続実施すると共に、安定した、もしくは新規の販路開拓を支える仕組みづくりを支援していく。

また、関係者と連携して、需要者とのマッチング、直売所の活性化や、田舎暮らし体験事業などの都市農村交流者への農産物販売なども検討していきたい。



道の駅「くじ・やませ土風館」

松本議員

飼料用米生産による稲作農家の所得確保について

Q 質問 来年より稲作に対する直接支払制度の金額が半減され、飼料用米に対しての補助金が増やされる。しかし勝山市には飼料用米の受け入れをする畜産農家は3軒しかなく、県内を探しても見つかる見込みは薄い。その中で稲作農家の所得を確保することはできるのか。

A 答弁 飼料用米は水田を有効利用する上で重要なものであることから、地域に合った形で前向きに対応できるよう関係者と調整していく。また、今後、国施策の情報をしっかり掴み、関係者の皆様に周知し、勝山の農業に即した施策となるよう、県、国に要望していく。

あわせて、主食用米の高付加価値化を図るとともに、新規需要米や地域特産物の振興を図るため、JAや県などの関係団体と連携し、勝山の農業振興に努めたい。具体には意欲ある農業者がさらにおいしいお米をつくり、JAや民間事業者等による販売体制を強化し、売れる仕組みづくりを支援できるよう検討していく。

その他の質問
イノシシ、シカの食肉処理施設建設について
北谷地区及び山間地の屋根融雪について
市民交流センターの温浴施設の設計と運営方針について

住民活動災害補償制度の設置について

Q 質問 勝山市内では住民による社会奉仕活動などで、エンジン付きの草刈り機などプロ並みの機械を使っている。本格的な作業が行われている。もし、その作業中に事故が起きた場合、指揮している区長などが責任を問われるケースも考えられる。全国には住民活動災害補償制度がある自治体もある。勝山市においても検討できないか。

A 答弁 各地区における奉仕作業の内容がそれぞれ異なるので、活動の内容により、地域の実情に合った補償内容による任意での加入が必要であると考えている。今後、任意で各地域で保険に加入していただく支援として、各地域で組織されている自主防災組織への活動事業補助金での支援ができないか、今後検討していく。

